

さらに詳しく(さらに深く、さらに広く)

ハンセン病のウソ・ホント

ハンセン病の歴史をふりかえると、「ハンセン病は感染する」「業病である」などのデマや思い込みによって、ハンセン病患者のみならず家族が差別の対象となって攻撃される時代がありました。差別解消の第一歩は正しい知識をもち正しく行動することです。

この機会に、ハンセン病に関する知識をチェックしてみましょう。



【参考：笹川記念保健協力財団「世界のハンセン病」
滋賀県「ハンセン病問題を正しく理解してください」】

質問 以下のことがらは、ウソ・ホントどちらですか？

1 ハンセン病は遺伝病です。

× 遺伝病ではありません。
ハンセン病はらい菌による感染症です。

2 ハンセン病は昔からあった病気です。

○ はい、昔からあった病気です。
その起源は紀元前までさかのぼります。日本でも「日本書紀」や「今昔物語」の書物に、「らい」の記述が見られます。

3 ハンセン病は不治の病です。

× 治る病気です。
現在では、いくつかの飲み薬の組み合わせによる多剤併用療法(MDT)で治療されています。昔は「不治の病」といわれ、多くの人から恐れられた病気でした。

4 ハンセン病患者は隔離されなければならない。

× 隔離の必要はありません。

昔は法律によりハンセン病患者は隔離されていましたが、今は法律も廃止され、隔離の必要は全くありません。

ハンセン病は、治療を受ければ完治します。らい菌の感染力は非常に弱く、日常生活では感染の恐れはありません。

5 ハンセン病問題は完全に解決しました。

× 解決していません。

すでに「らい予防法」は廃止され、ハンセン病療養所入所者は自由に療養所の外で住むことができます。

しかし、入所者の多くはすでに高齢になっていることもあり、療養所を退所する方はほとんどいません。

また、熊本県のホテルのハンセン病療養所入所者の宿泊拒否事件など、いまだに偏見や差別が根強く残っています。



私たち一人ひとりが、ハンセン病をめぐる歴史(隔離政策など)や現在のハンセン病を取り巻く状況を正しく知ることが、ハンセン病の問題解決の第一歩となります。